

## アキュラホーム 2011 年度業績の概況について 売上高 18 期連続増収、過去最高益を更新！

株式会社アキュラホーム(本社:東京都新宿区、社長:宮沢俊哉)の 2011 年度(2012 年 2 月期)の業績は増収増益となりました。売上高は 36,066 百万円(前期比 6.7%増)と 94 年度以来、18 期連続で増収となるとともに、営業利益は 2,189 百万円(前期比 5.7%増)、経常利益は 2,300 百万円(前期比 3.5%増)、当期純利益は 1,313 百万円(前期比 5.6%増)と増益となり、いずれも過去最高益を更新しました。

当事業年度における日本経済は、東日本大震災の発生により国内景気は大きく影響を受けたものの、企業活動の早期再開により供給面への制約がほぼ解消され生産活動の正常化が進み、個人消費の改善など、緩やかな回復基調が見られました。しかしながら、夏場以降の急速な円高の進行、欧州政府債務危機の顕在化による世界景気の減速懸念などにより先行き不透明な状況が続きました。

住宅市場においては、所得減少や雇用不安から本格的な回復には至っていないものの、住宅取得など資金に係る贈与税の特例措置の拡充、住宅ローン減税、住宅版エコポイント制度などの政策支援による効果により、持家をはじめとする新設住宅着工戸数に持ち直しの動きが見られ、全体としては若干の回復基調となりました。

このような経済状況の中で、当社は地域性を重視した執行体制を強化し、新規出展展示場による営業拠点の拡充を進めました。また、環境配慮や省電力住宅への研究開発や各種の人材育成の強化に取り組み、より安全安心な住まいの提供を目指してまいりました。

地域密着ホームビルダーとして、支店を活動拠点の中心に据えて積極的なご入居者訪問を行い、お客様サポートを実施してきました。定期的に開催される「住まいのお手入れ講座」のご案内を行なうなど、新たなお客様ニーズにもお応えしていく活動を強化してきました。

研究開発においては、東日本大震災以降、万が一の停電時に備える蓄電池搭載住宅、太陽光とガスのダブル発電システム(創エネ)に蓄電システム(蓄エネ)を搭載した住宅など時代のニーズに合わせて商品を発表。2012 年 1 月には 1000 万円台からのスマートハウス「Meguru-Plus(めぐるプラス)」を発売しました。光熱費収支年間プラス 5 万円を可能にし、併せて業界では初となる「光熱費収入プラス 5 万円補償」を付加し話題となりました。その一方で、ソフト面においても節電を啓発する活動として楽しみながら節電できる暮らし方の提案や「アキュラ節電の匠コンテスト」を開催。コンテストには夏は 916 件、冬には 601 件の応募があり、総電力量 195,622kwh の削減を達成しました。

こうした活動を通し、住宅建築及び不動産を扱う住宅建築事業は、受注棟数は 1,529 棟(前期比 4.1%減)、完工棟数は 1,511 棟(前期比 4.3%増)となり、当該部門の売上高は 34,906 百万円(前期比 7.3%増)となりました。

工務店ネットワーク「ジャブネット」の運営を行う工務店支援事業ビルダー開発事業部門は、東日本大震災直後より被災会員救済と地域復興の実現に向けた資材調達・ノウハウ提供を最重要テーマとして支援に注力してきました。また、前々期に経営改善を目指して選考された会員企業へのサービス拡充を目指し立ち上げた「リーディングプロジェクト」に加えて、新たに「永代ビルダー塾」を発足して支援サービスを開始するとともに、継続的な共同仕入商品の拡充、会員との連携を深める数々の情報提供などの活動を積極的に行いましたが、環境悪化から会員数は減少しました。この結果、当該部門の売上高は減少し、1,160 百万円(前期比 9.6%減)となりました。

---

### <本件について報道関係からのお問い合わせ先>

株式会社アキュラホーム広報課 堀越・若林 Email: horikosi@aqura.co.jp 携帯:090-7843-6574

住所: 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル 34F TEL:03-6302-5010 (直通) FAX:03-5909-5560

今後においては、市場環境の変化、多様化するお客様のニーズに対応し、2010 年度を初年度とした中期経営計画に掲げた 2012 年度を建築業(製造・販売)にとどまらない住まい・暮らしのトータルサービスの提供を目指した最終年度とともに、次期中期経営計画への準備期ととらえ、さらなるサービスの拡充に着実に取り組みます。

具体的には、今後実施が見込まれる消費税増税を見据えて、よりお客様のニーズに応えるとともに、満足度の継続的な向上を目的とした「家守り」活動を中心に、お客様との関係強化を継続し、お客様、従業員、企業にとっての価値最大化を目指し事業継続をさらに確実なものとし、収益基盤の強化に努めてまいります。

これらの取り組みにより、2012 年度のアキュラホームの業績は、完工棟数は 1,689 棟(前期比 11.8%増)、売上高は 414 億円(前期比 18.6%増)を見込んでいます。

また当社は、グループ会社(株式会社アキュラランドインフォメーション、株式会社エポシステム、株式会社オカザキホーム)全体の企業価値の向上を目指すために、2012 年 3 月 1 日に株式会社アキュラホールディングスを設立し、持ち株会社体制へ移行しました。次世代の経営層の発掘、戦略と事業の分離による機動的な経営、事業会社経営責任明確化を確実に実現することを目指してまいります。

#### 2011 年度(2012 年 2 月期)の業績 (2011 年 3 月 1 日～2012 年 2 月 29 日)

|               | 売上高    |     | 営業利益  |       | 経常利益  |      | 当期純利益 |      |
|---------------|--------|-----|-------|-------|-------|------|-------|------|
|               | 百万円    | %   | 百万円   | %     | 百万円   | %    | 百万円   | %    |
| 2011 年度(27 期) | 36,066 | 6.7 | 2,189 | 5.7   | 2,300 | 3.5  | 1,313 | 5.6  |
| 2010 年度(26 期) | 33,802 | 9.3 | 2,071 | 103.8 | 2,223 | 92.5 | 1,244 | 90.0 |

(%表示は対前期増減率、記載金額は百万円未満切捨て表示)

#### 部門別売上高

|               | 住宅建築<br>事業部門 |     | ビルダー開発<br>事業部門 |      |
|---------------|--------------|-----|----------------|------|
|               | 百万円          | %   | 百万円            | %    |
| 2011 年度(27 期) | 34,906       | 7.3 | 1,160          | △9.6 |
| 2010 年度(26 期) | 32,519       | 9.6 | 1,282          | 1.7  |

(%表示は対前期増減率、記載金額は百万円未満切捨て表示)

#### 受注・完工棟数

|               | 受注棟数  |      | 完工棟数  |     |
|---------------|-------|------|-------|-----|
|               | 棟     | %    | 棟     | %   |
| 2011 年度(27 期) | 1,529 | △4.1 | 1,511 | 4.3 |
| 2010 年度(26 期) | 1,594 | △3.3 | 1,449 | 6.0 |

(%表示は対前期増減率)